



厚真町社会福祉協議会 / 生活支援担当主幹 山野下誠

進められたのも、会議の存在が大きいです。混乱の最中から先行きの見通しや立ち位置を確認しながら仮設住宅建設後の生活支援期に至る現在まで、

安平町役場 / 総務課長 田中一彦

この会議は今までの災害におけるノウハウと声を上げられない人の声も把握しており、町にとって大事である。

東北大学災害科学国際研究所 定池祐季

「きたのわ」さんの姿から、災害支援とフシリティーショの基本姿勢の親和性について気がかされた。自分も、「寄り添う」、「引き出す」、「見える化する」、「つなげる」姿勢を忘れないようにしていきたいと思っ

きたのわとは？

「NPOファシリテーションきたのわ」は、ファシリテーションを活用して、北海道内のまちづくりの現場をサポートしたいという思いから、2010年4月に団体設立しました。

目指す社会の姿(ビジョン)

住民が対話を通じて地域やコミュニティの課題を解決していく社会の実現を目指します。

ビジョンを実現するために取り組むこと(ミッション)

- 北海道全域を対象としたファシリテーションを実践している人が繋がる、学びあえる組織や場をつくれます。
- 北海道で行動が生まれる参加型の話し合いの場を増やします。

大事にしていること

当団体会員は、自分の地域や組織のなかで参加型の場づくりやファシリテーションを実践している人です。現在は各地域で活動しているNPOなど非営利組織に関わる人がほとんどです。会員がかかわるまちづくりの取り組みやファシリテーションの現場などについて実践的な情報共有と意見交換、研修や学習会の場において進行補助や運営補佐として関わることができるOJT制度を設け、共に学びあえる実践的な学習の機会を作っています。

お問合せ先

NPOファシリテーションきたのわ
 〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目5-74
 市民活動プラザ星園306号室
 E-mail | kitanowa.info@gmail.com
 ※このダイジェスト版は2020年3月に作成しました



北海道胆振東部地震における「情報共有会議」の運営支援の中間報告

ダイジェスト版

いまま全国で自然災害が頻発しており、支援活動が続いています
 この冊子が被災地で必要としている方の手に届き、試行錯誤した私たちの経験が
 そうした被災地で奮闘している方々のお役に立てることを願っています

